

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区大手前1-3-20	氏名	学校法人追手門学院 理事長 川原 俊明
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		追手門学院幼稚園・こども園（豊中）、追手門学院小学校、追手門学院大手前中・高等学校（大手前）、追手門学院中・高等学校及び追手門学院大学・大学院（茨木）を有する総合学園		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,435 t-CO ₂	5,174 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,124 t-CO ₂	5,838 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (25 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 3 %	0.9 %	4.9 %	4.9 %
		削減率(原単位ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.7 %	4.7 %	4.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・過去から省エネ設備への更新等を行い省エネルギーを積極的に推進してきた。 ・しかし、平成25年度以降、大学・高校の授業時間の拡大およびクラブ活動の強化により、エネルギー使用量が増加した。このため、大学を中心に省エネ活動の実践を強化している。 ・学校法人、大学～小学校に至る4校の管理標準を整備しており、今後も管理を強化する。 ・エネルギー管理システムの導入で「見える化」を通じて、エネルギーの使用の管理に努めている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度以後は、政府や電力会社からの節電要請に対応すべく、照明設備や空調設備を中心に節電・省エネ対応を強化している。併せてデマンドの抑制を図っていく。 	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> 省エネ法の法定責任者のほかに、各事業所等に省エネ責任者を配置し、組織的に省エネ活動を推進している。 省エネルギー委員会を開催し、学院全体での省エネ意識向上に取り組んでいる。 「省エネ月間」の設定や「環境宣言」の制定を行い、学院関係者全体の省エネ意識向上（醸成）に努めている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての 事業所	コード (1111) 省エネ会議の 開催	・省エネ会議の開催 学院内の構成員に対し、省エネへの意 識向上を図る。 (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての 事業所	コード (1112) データの一括 管理	・データの一括管理を主管部署が行い、 学院全体のエネルギー使用状況の把握 する。 (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1113) 中央監視室で の集中管理	・教室・事務室内の空調は中央監視室で の一括管理を行っている。 今後も継 続して行う。 (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての 事業所	コード (1114) 定期的な保守 点検	・定期的な設備機器のメンテナンスの実 施。 過去から継続して実施。 (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての 事業所	コード (1218) 省エネ型照明 器具への更新	・省エネ対応照明設備(H f 蛍光灯ラン プ)およびLED電球への更新。 (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1215) 省エネ型誘導 灯への更新	・既存誘導灯を高輝度型LED誘導灯に 更新。(学友会センター) 20W型→LED 3W 型 × 22台 (1.7 t-CO2/年削減) (継続実施中)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1216) 高経年空調機 の更新	・高経年の空冷エアコンをビル用マルチ エアコンに更新。(学生会館) 冷房能力：のべ 161 kW (10台) (7.2 t-CO2/年削減、13 kW [°] -カット)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1216) 高経年空調機 の更新	・高経年の空冷エアコンをビル用マルチ エアコンに更新。(学友会センター) 冷房能力：のべ 223 kW(5台) (5.9 t-CO2/年削減、16 kW [°] -カット)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1216) 高経年空調機 の更新	・高経年の空冷エアコンをビル用マルチ エアコンに更新。(第2学友会センタ ー) 冷房能力：のべ 145 kW (4台) (6.9 t-CO2/年削減、19 kW [°] -カット)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1216) 高経年空調機 の更新	・高経年の空冷エアコンをビル用マルチ エアコンに更新する。(大学 5号館) 冷房能力：のべ 1,864kW(54台) (101t-CO2/年削減) (平成28年度に約6割実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード (1216) GHP→EHP へ更新	・ガスヒートポンプ(GHP)を電気式 ヒートポンプ(EHP)に更新。(食堂) 暖房能力：のべ 1,029 kW(17台) (27.6 t-CO2/年削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

12	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード(1216) セントラル空調→個別分散 空調へ更新	・ガス吸収式冷温水機100RT×2台を高効 率空冷ヒートポンプチラーに更新。 (学生会館) 100RT×2台→85 kW×7台 (35.9 t-CO2/年削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード(1218) 省エネ型照明 器具への更新	・グランド照明設備の一部をLED電球に更 新する。 600W型×72台 (15.6 t-CO2/年削減) (平成27年度実施済み)	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード(1218) 省エネ型照明 器具への更新	・校内歩道照明の一部をLED電球に更 新する。 5.2～19.9W×合計約90台 (0.3 t-CO2/年 削減) (平成27年度実施済み)	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード(2121) 保有する公用 車を低燃費車 に更新	大学が保有する公用車4台について、低 燃費車に更新。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	追手門学院 大学	コード(2123) 使用者に対す る啓発活動	自動車通勤する者に対し、エコドライブ を推奨するチラシの配付。また、駐車許 可証にもエコドライブ推進を明記。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度以後は、政府や電力会社からの節電要請に対応すべく、照明設備や空調設備を中心に節電・省エネ対応を強化しているが、今後も継続する。 故障等による既存設備の更新時は、省エネ型機器の導入に努める。

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市長尾家具町2丁目1-1	氏名	大阪サンエー物流株式会社 代表取締役社長 小俣 庄市
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストアの店舗への配送事業。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,347 t-CO ₂	8,396 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,347 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-5.6 %	-5.6 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>グリーン経営認証取得する等、環境保全の推進を見直し・エコドライブを心掛けたことが温室効果ガスへの削減に結びついたと思われま。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エコドライブを徹底的に実践させます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード(2112) 燃費データー の管理	デジタルタコメーターによるエンジンの 回転数管理	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全事業所	コード(2123) アイドリング ストップの推 進	荷物の積み下ろし時にアイドリングス トップ	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	兵庫県尼崎市東浜町1番地	氏名	株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ 代表取締役社長 杉崎 康昭
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		チタン・ポリシリコン及びチタン、ポリシリコンの新用途開発品の製造・販売を行っております。 大阪府においては主にポリシリコンの生産を行っております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	188,712 t-CO ₂	200,224 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	199,986 t-CO ₂	212,675 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-2.2 %	0.3 %	-11 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-1.6 %	-0.4 %	-11.3 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量(ポリシリコン換算)) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
岸和田製造所における原単位 = 電力およびガスをCO ₂ に換算した量 / (ポリシリコン+チタンインゴットの生産量) をポリシリコンに換算した生産量	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

岸和田製造所における原単位増減の主な要因 ポリシリコン生産量の減少(基準年度(H25年度)比4.4%減) ポリシリコン品質向上のための操業強化等により生産量に対するCO ₂ の比率が高くなった。 ポリシリコン生産における、蒸留塔の運転適正化 等は継続	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社長を委員長とする「環境防災委員会」を年4回開催し、省エネルギーに関する重要項目について審議する。
 ISO14001の認証

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	岸和田製造所	コード (1113) 生産設備改善 による原単位 低減	ポリシリコン生産における、スチーム原単位の低減 H26年度実施済み H27年度実施済み H28年度実施済み	26 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	岸和田製造所	コード (2123) エコドライブ の推進	事業所間移動時に定期マイクロバスを利用し、社有車の使用頻度を減らす	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府中央区本町橋2番31号	氏名	大阪府市町村職員共済組合 理事長 多田 利喜
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		宿泊業を営んでおり、2006年竣工。地上14階、地下2階延べ床面積31,236㎡の「シティプラザ大阪」を運営。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,058 t-CO ₂	4,391 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,420 t-CO ₂	4,747 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	2.2 %	13.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.9 %	11.9 %	12.5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>温泉設備の不具合によりボイラー稼働率が増加したため、昨年に比べガス使用量が増加しましたが、負荷量に応じて各機器の運転見直しや、高効率タイプへの機器更新により電気エネルギー使用量は削減しています。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

不具合設備の改修による効率改善や、毎季ごとの各機器運転見直しを行い、省エネ及び温暖化防止に努める

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (1218) 照明設備への 省エネ技術の 導入	既存照明が不点灯となった際、交換する 照明をLEDへ変更	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (1113) ボイラーの温 度、運転管理	夏期と冬季、更に中間期のボイラー温度 設定を細かに対応 使用頻度の低い時間帯、運転台数を減ら し、無用な運転を下げる	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (1214) コージェネ レーションの 運転管理	電力需要を見ながら、無用な運転を避け る	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (1211) ボイラー更新	高効率のボイラーへ更新	29 年度
	レ	人工排熱				0 年度
		平準化				
5		GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (5115) エレベーター の使用頻度の 低下	2UP・3DOWN運動を周知徹底させ、 エレベーターの使用頻度を下げる	26 年度
		人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	シティプラ ザ大阪	コード (1218) 照明設備への 省エネ技術の 導入	スパ・フィットネス等の長時間照明を LEDへ変更する。	29 年度
	レ	人工排熱				0 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策

・従業員エリアの空調設定温度及び照明不要箇所の消灯を集中管理にて調整管理し、無用な運転を避ける

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区北浜2-5-4	氏名	大阪シティ信用金庫 河村 正雄
特定事業者の主たる業種		63協同組織金融業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪府内に89の事業所を展開する金融機関。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,624 t-CO ₂	4,677 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,571 t-CO ₂	5,484 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.6 %	4.6 %	12.9 %	11.6 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.6 %	12.8 %	11.3 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>1、全店において、ウォームビズ及びクールビズを実施した。</p> <p>2、空調温度においては、夏季、28℃、冬季18℃に設定し節電に努めた。</p> <p>3、本部の月間電力量をグラフ化して食堂に掲示し、職員の省エネに関する意識高揚に努めた。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネに関しては、省エネ法が適用されておりますので、総務部が主体で実施し、各所へ報告書やアンケートを提出しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	長吉支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間2.8 t-CO ₂ を削減) 平成26年度に完了しました。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	萩之茶屋支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間2.8 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	御厨支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間2.0 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	生野支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間2.4 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	上小阪支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間2.4 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	平野支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間4.4 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	布施支店	コード (1218) 照明器具を更新する。	照明器具を効率の良い器具に更新する。 (年間3.4 t-CO ₂ を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	岸の里支店	コード (1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間3.2 t-CO ₂ を削減) 平成28年度に中止しました。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	御厨支店	コード (1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間3.6 t-CO ₂ を削減) 平成27年度に完了しました。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	北支店	コード (1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間1.0 t-CO ₂ を削減) 平成28年度に廃店しました。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	生野中支店	コード (1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間6.0 t-CO ₂ を削減) 平成27年度に完了しました。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

12	レ	GHG排出	上小阪支店	コード(1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間6.0 t-CO2を削減) 平成27年度に完了しました。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	桃谷駅前支店	コード(1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間1.0 t-CO2を削減) 平成27年度に完了しました。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	八尾南支店	コード(1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間5.6 t-CO2を削減) 平成27年度に完了しました。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	志紀支店	コード(1216) 空調機を更新する。	効率の良い空調機に更新する。 (年間5.0 t-CO2を削減) 平成27年度に完了しました。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	全店舗	コード(1113) 空調機運転による室内温度の適正化。	室内温度を夏季28℃以上、冬季20℃以下で運用する。 (年間17.0 t-CO2を削減)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	全店舗	コード(5112) 照明の適正化	必要以上の照明を間引き、不良個所の消灯をする。 (年間1.7 t-CO2を削減)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
18		GHG排出	全店舗	コード(5111) 複数台の空調機の適正起動。	業務準備のための空調機の一斉運転を避け、起動間隔を空けて順次運転する。 (CO2削減無し)	26年度 ～ 28年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区備後町3丁目6-14 アーバネックス備後町ビル	氏名	株式会社オージースポーツ 代表取締役社長 京 雅也
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		・フィットネスクラブ、テニスクラブの経営 ・スポーツ施設、保養施設の管理運営 ・所有不動産の賃貸		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間															
平成	26	年	4	月	1	日	～	平成	29	年	3	月	31	日	(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	15,198 t-CO ₂	14,999 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,590 t-CO ₂	16,315 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	0.7 %	0.8 %	3.7 %
削減率(平準化補正ベース)		－ %	0.8 %	0.8 %	4.1 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

照明器具のLED化の推進(平成28年度5店舗)、GHPの更新(平成28年度4店舗)、インバーターの設置(昇温関係1店舗、プール空調関係3店舗)などにより効果が出ている。また、浴室等の節水対策によりガス使用量の削減にも効果が出ていると考えられる

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社は省エネルギー及び温暖化対策に取り組むためビル入居テナントである親会社及びビル管理委託会社と連携し、ビル全体及びテナント別のエネルギー使用量等の実績を毎月把握して温暖化対策を推進する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	フィットネスクラブ	コード(1218) 省エネタイプ機器の採用推進	照明器具の高効率型(LED等)への変更の推進	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	テニスクラブ	コード(1218) 省エネタイプ機器の採用推進	照明器具の高効率型(LED等)への変更の推進	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	フィットネスクラブ	コード(1214) コージェネレーションの更新	コージェネレーションの更新	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	フィットネスクラブ	コード(1216) ガスヒーポンの更新	ガスヒーポンの更新	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	ドームシティガスビル	コード(1113) 空調調和設備の運転管理の適正化	テナントと連携してウォームビズ、クールビズ活動を推進し、適正温度となるようにビル管理委託会社に運転管理システムの運転管理を依頼している(年間推定 50t-CO2を削減)(前計画の継続)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	ドームシティガスビル	コード(1113) 適正な台数運転	エレベータの夜間、休日の間引き運転による動力電力の削減を行なう。(年間 3t-CO2を削減)(前計画の継続)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	ドームシティガスビル	コード(1113) 空調調和設備の運転管理の適正化	空調外調機の夜間休日の間歇運転の実施による動力電力の削減及び地域冷暖房設備から受入の冷水又は温水の使用熱量を削減する。(年間 72t-CO2を削減)(前計画の継続)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	ドームシティガスビル	コード(1218) 省エネタイプ機器の採用推進	更新時期を迎えた照明器具の更新時にはLED照明器具を採用、照明制御システム対象外のエリアでは人感センサーによる点灯管理等の採用を進める。(年間 34t-CO2を削減)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	ドームシティガスビル	コード(1113) 空調運転管理の適正化	平成25年度に更新したビル管理システム及び空調制御機器の機能を生かし、空調運転管理の適正化を図る。(年間 50t-CO2を削減)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	フィットネスクラブ	コード(1299) 浴室節水対策によるガス使用量の削減	浴室等節水対策の促進	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都港区芝2丁目14番5号	氏名	オリックス不動産投資法人 執行役員 尾崎 輝郎
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産投資法人として投資対象不動産を保有し、不動産から得られる賃料収入や売却利益を投資家へ分配することを事業としている。 なお、実際の不動産運用については、オリックス・アセットマネジメント株式会社に委託している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,281 t-CO ₂	2,608 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,824 t-CO ₂	2,959 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	21.1 %	42.4 %	58 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	20.7 %	43.9 %	59.1 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (使用延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

温室効果ガスの削減は、原単位ベースで基準年度比 58.0% 削減した。 削減要因としては、点灯の間引きやテナントへの協力を求める等に加えて、2事業所の電力を一般電力から新電力に変更したためと考えられる。 事業所では、堂島プラザとヴィアイン心斎橋ビルの削減量が大きかった。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各事業所のアセットマネジメント担当者が主となり、実際に事業所の諸設備の運用・管理を行うプロパティマネジメント会社及びビルマネジメント会社と定期的に温室効果ガス排出抑制に関する協議を行う。
また、各事業所に入居するテナントに対して、テナント占有部における温室効果ガス排出抑制への協力を求める啓蒙活動を行う。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 啓蒙活動の推進	テナントに対して温暖化防止対策に関する啓蒙活動を実施し、省エネ活動への協力依頼	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) エネルギーデータの消費傾向の把握	エネルギーデータの管理による前年度比などエネルギー消費増減把握	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1216) エネルギーデータの消費傾向の把握	共用部の空調温度を夏期28℃、冬期20℃を目標に設定温度を緩和する。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照度管理	共用部照明の点灯時間、点灯範囲を見直しを実施。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策
